

ネヘミヤの祈り

祈りの礼拝 #2

2/17

ネヘミヤ記1章1～4節

ハカルヤの子、ネヘミヤの記録。第二十年のキスレウの月、わたしが首都スサにいたときのことである。兄弟の一人ハナニが幾人かの人と連れ立ってユダから来たので、わたしは捕囚を免れて残っているユダの人々について、またエルサレムについて彼らに尋ねた。彼らはこう答えた。「捕囚の生き残りで、この州に残っている人々は、大きな不幸の中にあって、恥辱を受けています。エルサレムの城壁は打ち破られ、城門は焼け落ちたままです。」これを聞いて、わたしは座り込んで泣き、幾日も嘆き、食を断ち、天にいます神に祈りをささげた。

バビロン捕囚と帰還

■ バビロン捕囚

- 紀元前586年にイスラエルはバビロンによって滅ぼされた
- その前後、数回にわたって一部の人々がバビロンに連れて行かれた(バビロン捕囚)

■ パレスチナ帰還

- 538年にバビロンを滅ぼしたペルシャの王クロスがユダヤ人の一部を帰還させた
- 516年に神殿を再建した

ネヘミヤについて

- 捕囚地(ペルシャ)で生まれ育ったユダヤ人
 - アルタクセルクセス王の第20年とはBC445年
 - 第1回目の帰還から100年以上経過している。
 - 祖国を知らないが信仰教育を受けていた
- 王の献酌官であった
 - 捕囚地で重んじられたユダヤ人は多かった
 - 「献酌官」とは王の酒を吟味する重要な役割
 - ネヘミヤは王の信頼と寵愛を受けていた

祖国の窮状を聞いたネヘミヤ

■ 祖国の様子を聞いたネヘミヤ

－ 兄弟ハナニがパレスチナの様子を調べてきた

■ エルサレムの城壁が破壊されたままだった

－ 城壁は中近東において安心して暮らすためには絶対必要だった

－ せっかく再建した神殿が危険にさらされていた

■ 「大きな不幸の中にあって、恥辱を受けています」

ネヘミヤの反応

- 「座り込んで泣き、幾日も嘆き」
 - － 気持ち(感情)を主に向かって表した
- 「食を断ち」:断食
 - － 肉体的苦痛により罪の自覚と恐れをもって神に近づく。人間の無価値・愚かさの表現
- 「天にいます神に祈りをささげた」
 - － 他の誰に相談するよりも神に相談した
 - － 必死でくらいついた

わたしはこう祈った。「おお、天にいます神、主よ、偉大にして畏るべき神よ、主を愛し、主の戒めを守る者に対しては、契約を守り、慈しみを注いでくださる神よ。耳を傾け、目を開き、あなたの僕の祈りをお聞きください。あなたの僕であるイスラエルの人々のために、今わたしは昼も夜も祈り、イスラエルの人々の罪を告白します。わたしたちはあなたに罪を犯しました。わたしも、わたしの父の家も罪を犯しました。あなたに反抗し、あなたの僕モーセにお与えになった戒めと掟と法を守りませんでした。どうか、あなたの僕モーセにこう戒められたことを思い起こしてください。『もしも背くならば、お前たちを諸国の民の中に散らす。もしもわたしに立ち帰り、わたしの戒めを守り、それを行うならば、天の果てまで追いやられている者があるとしても、わたしは彼らを集め、わたしの名を住まわせるために選んだ場所に連れて来る。』彼らはあなたの僕、あなたの民です。あなたが大いなる力と強い御手をもって贖われた者です。おお、わが主よ、あなたの僕の祈りとあなたの僕たちの祈りに、どうか耳を傾けてください。わたしたちは心からあなたの御名を畏れ敬っています。どうか今日、わたしの願いをかなえ、この人の憐れみを受けることができるようにしてください。」

ネヘミヤの祈り

■ 主への賛美

–「偉大にして畏るべき神よ、...」

■ 罪の告白

–「わたしたちはあなたに罪を犯しました。...」

■ 約束を盾に

–「どうか、あなたの僕モーセにこう戒められたことを思い起こしてください。...」

■ 具体的に願う

–「この人の憐れみを受けることができるように...」

祈りの答え

- 王がネヘミヤの様子を心配して「何か心に悩みがあるにちがいない」と言った
- ネヘミヤは素直に祖国の窮状を訴えた
- 王は「何を望んでいるのか」と尋ねてくれた
- 「わたしは天にいます神に祈って」王に答えた
- 王はエルサレムに行く許可と城壁再建に必要な資材を与えた